

颯爽



No6 令和6年9月2日

文責 校長 山浦 修

学習状況調査の結果

7月30日(火)の佐賀新聞に「県内小6、中3平均下回る」という見出しで、4月に実施した全国学力・学習状況調査結果の詳細が載っていました。その記事を見て不安に感じられた方もおられると思いますが、3年生の結果は、国語・数学ともに、佐賀県・全国を上回る結果になりました。また、2年生も4月に国語・数学・英語の佐賀県学習状況調査を実施しましたが、すべての教科において佐賀県を上回る結果となりました。家庭学習の取組や授業態度、職員の日ごろの教材研究や校内研修の成果が結実したものと思っております。



【山口先生の研究授業の様子】

校内研修では、すべての職員が1回は授業を公開するとしています。7月3日に実施した山口哲生先生による総合的な学習の時間の研究授業は、全職員で参観し、意見等を出し合いながら、お互いの授業力向上のための研修としました。一方、正答率だけでは分からない、本校の課題も明らかにしていく必要があります。そこで、8月22日に全職員で生徒の誤答の分析を行い、どこにつまずいているのかを明らかにしました。これからの授業計画に活かしていきます。大きく次の2つの課題が明らかになりましたので、参考までにお知らせします。

- ① 映像では理解できるが、文章から読み取ることが難しい
- ② 根拠を明らかにして説明する力に課題がある

上記のように、読解力を身につけさせる必要性を感じましたので、今実践している「朝読書」をもう一度見直して取り組むことを、全職員で確認しました。

中体連・コンクール等の応援、ありがとうございました



8月26日(月)の全校集会で、パリオリンピックで活躍した池江璃花子選手の話をしました。2019年に白血病となり、すさまじい闘病生活で、体重も15キロほど減ったそうです。そこから、血のにじむような努力を重ね、東京オリンピックのリレーメンバーに選ばれました。そして、3年間さらに努力を重ね、パリオリンピックに挑んだのですが、決勝に進むことはできませんでした。その時、池江選手は「これまで頑張ってきた分が無駄だったのか」とインタビューで答えています。無理もないことだと思いますが、その後、「勝負の世界なので勝てなきゃ意味がない。自分の力を出し切れずに終わったし、また4年後リベンジしに帰ってきたい」と前を向きます。全校集会では、この意志の強さに感動したことを伝えました。また、落ち込んで涙している池江選手を、オーストラリアの選手がハグをして、「病気を考えれば、世界の舞台に戻ってきただけでもすばらしい。アスリートとしての強い気持ちがある」と慰め、讃えています。オリンピックらしく、国を超えての感動的なシーンであったと伝えました。

佐賀県中体連総合体育大会では、それぞれの競技で地区の代表として、すばらしい活躍を見せてくれました。これまで、試合の送迎や弁当作りなど、物心共に支えていただきました保護者の皆様、ありがとうございました。現在は、ほとんどの部活動が新チームとなり、2年生が引っ張っています。夏休みも元気な声とはつらつとした練習態度が見られ、たいへん頼もしく感じています。新チームの活躍を期待しましょう。

キ リ ト リ

返信欄 表面 (第6号)

生徒氏名 () 年 () 組 () 号 ()

早朝から除草作業、夜遅くに巡回指導、ありがとうございました

8月18日(日)に除草作業を実施しました。約80名の保護者の方に参加いただき、グラウンドの草取り、敷地周辺の草刈りを朝6時から1時間程度、生徒が気持ちよく学校生活を送るために献身的に作業をしていただきました。ありがとうございました。

また、7月の土曜夜市や8月の花火大会の巡回指導も、夜の遅い時間帯にもかかわらず、ご協力いただきまして、ありがとうございました。



学習の方法について

すべての生徒に当てはまるとは限りませんが、参考までに

「科学的根拠に基づく最高の勉強法」(著者: 安川康介 出版: 株式会社 KADOKAWA) という本を参考にして、学びに効果的と言われる「思い出す」「繰り返す」について紹介します。

- ① 本の中では、「思い出す」ことが最も効果的であると示されていました。私たちの脳は忘れるようにできています。エビングハウスの忘却曲線によると、1日後には70%以上忘れてしまうと言われています。ただ、人間は忘れるばかりではなく、「何度も触れた情報は大切と認識して覚えておく」という特性があるようです。そのため、「思い出す」行為は、「忘れない」ためにとても大切なようです。たとえば、家庭学習の例ですが、宿題のあとにその日に学んだことを思い出しながらノートに書きだす。思い出せなかったことは教科書で確認するといったように、少しやり方を変えてみてもいいかもしれません。
- ② 思い出すことを「繰り返す」ことで、脳が「重要な情報」と認識します。その繰り返し方として、インターリービング学習が効果的であると載っていました。事例を一つ紹介します。4つの立体(円柱・円すい・球・楕円体)の体積を求める学習で、A・Bの2グループに分けて実験を行っています。

Aグループ

1つの立体の体積の求め方を勉強してから、その体積を求める問題を4問解く。残り3種類の立体についても同様に繰り返し、合計で16問解く。(たとえば、円柱の体積の求め方を勉強してから円柱の体積を求める問題を4問解き、順に、円すい、球、楕円体とそれぞれ4問解いて、合計16問解く)



Bグループ

4つの立体の体積の求め方をまず勉強してから、4種類の立体が混ぜこぜになった16問の問題を解く。



後日、テストを行ったところ、Bグループの正答率が高かったそうです。このBグループの学習が、インターリービング学習になります。家庭学習に活用できるかもしれません。



主な表彰 (8月26日現在)

○第65回佐賀県吹奏楽大会 銅賞

○全日本卓球選手権大会南部地区予選 カデット女子14歳以下シングルス 第3位 2年 上釜 小優葵

※「颯爽」第5号 返信欄より

○子どもたちの頑張りがマチコミで流れてきて、勉強だけでなく、スポーツも一生懸命することも大事だし、応援したいなと思いました。(1年生保護者)

○今まで勝てなかった相手に中体連で勝つことができて自信がついたように思います。先生方のご指導のおかげです。県大会では全力プレーを見せてほしいです。(2年生保護者)

○自転車で加害者になった場合の賠償額がそんなに大きいのかとビックリしました。自分がケガをしない様に安全運転をする事が第一ですが、事故にならないように周りにも気をつけてほしいです。(3年生保護者)

キ リ ト リ

返信欄 裏面 (第6号)

生徒氏名 () 年 () 組 () 号 ()